

## 第20回 北海道小・中・高生 短歌コンテスト 【講評】

北海道歌人会委員（公財）北海道文学館監事 阿知良 光治

今回の応募者は、小学一～三年生の部と、四～六年生の部、また中学生の部でも応募数が昨年より減少したことは残念でありました。しかし、高校生の部で少し増えたことは嬉しいことです。今年の応募者の合計は五、六五八名でした。応募団体数は一二二校で、特別支援学校が二校あり学習塾からの応募もありました。第一次審査通過者は二九五名、第二次審査に残ったのは二三五名、そのうち入賞者は八八名でした。審査に当たる私たちは「今年も心に残る素晴らしい作品に出合えましょう」と期待しながら慎重に審査をすすめました。

今回も、学校生活の喜びや、クラブ活動での頑張り、花火大会や夏休みの楽しかった思い出など、作者自身の思いがこもった素晴らしい作品に出合うことが出来ました。しかし、教科書のお手本をそのまま真似た作品も見られたことは少し残念でした。

短歌は自分の気持ちを素直に表現することで、読む人に感動を与える文芸です。最終審査に残った作品はそれぞれの学年の発達段階にふさわしいもので、身の回りの生活の様子が素直にうたわれており好感が持てました。なかでも特別賞に輝いた作品はそれぞれ工夫の跡が見られ、独自の表現力が際立っており素晴らしい作品でした。

これからも、日々の暮らしの中で見たことや感じたことを、皆さんなりの言葉で飾らずに表現した新鮮な作品に出合えることを期待しています。

入選された皆さん、おめでとうございます。

※掲載は部門別に学校名の五十音順。同学校内では学年順、同学年内では氏名の五十音順。  
〔各作品の講評執筆〕 特別賞／優秀賞・佳作・入選（小学生の部） 阿知良光治  
優秀賞・佳作・入選（中学生・高校生の部） 吉田 理恵

### 《特別賞 北海道教育委員会教育長賞》

ひとり旅さびしくないよ仙台で待つおじいちゃん思いうかべる

札幌市立盤溪小学校 3年 星山 藍子

【講評】仙台のおじいちゃんの家へ、たった一人で訪ねていく作品である。おじいちゃんの顔を思い出しながら寂しさを振り払おうとしている子どもらしい思いに読者も心打たれるのである。自分の内心をうまく表現した傑作である。

《特別賞 北海道立文学館賞》

鳥居越し沈む夕日を見つめつつ夏の海辺に願いをひとつ

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 2年 大橋 海斗

【講評】高校生らしいしっかりした作品である。上の句の情景描写が見事で、鮮明に目に浮かぶようである。さらに下の句は詩情豊かに「夏の海辺に願いをひとつ」と自己の心情を表現し、読む者の心に迫る。見事な作品である。

《特別賞 北海道歌人会賞》

クラス替え君の名前を見つけると僕の心は自然に踊る

石狩市立樽川中学校 2年 小川 瑚々

【講評】新学期になるとクラス替えがあり、廊下などに名簿が掲示されるのであろう。多くの人が経験した覚えがあると思うが、その中に好きな相手の名前を見つけた時の心の高まりを作品化した、新鮮でみずみずしい作品である。

《特別賞 北海道新聞社賞》

晴れた空遠くの山からうぐいすがあそぼあそぼとよんでいるよう

増毛町立増毛小学校 5年 菅野 なつ

【講評】遠くの山から聞こえてくるウグイスの鳴き声が、「あそぼあそぼ」と呼んでいるように聞こえたという。子どもらしい発想で微笑ましく素直な作品である。全体にリズムミカルで読む者も心がはずむようである。

《優秀賞》

小学一～三年生の部

盆おどりやぐらの上でドンドンカッたいこをたたくぼくもゆれる

札幌市立中央小学校 3年 水野 敢太

【講評】盆踊りの様子が、子どもらしく表現されている。特に「ドンドンカッ」というオノマトペ（擬音語）が生きており、賑やかな様子がよく出ている。その音に合わせて「ぼくもゆれる」がこの作品を躍動感のあるものになっている。

こうえんでブランコこいで上をみるわたあめみたいなくもがみえたよ

富良野市立鳥沼小学校 1年 小野 堇

【講評】近くの公園で、ブランコに乗った体験を作品化して、子どもらしい発見がある。上を見たら「わたあめみたいなくもがみえたよ」と、誰もが共感でき、いっしょにブランコをこいでいる気持ちになるような作品となっている。

小学四～六年生の部

かわいいなふれるとキヤキヤキヤわらうかおついにできたよぼくのいもうと

札幌市立盤溪小学校 4年 富樫 隆聖

【講評】自分に妹が出来たことを喜ぶ、とても素直な作品である。ここでも「キヤキヤキヤ」というオノマトペがいきいきと伝わってくる。その感動を下の句で「ついにできたよぼくのいもうと」と端的に表現し喜びが伝わってくる。

ただいまと笑顔で帰る弟の今日のがんばりひぎの黒土

留萌市立緑丘小学校 5年 田村 優衣

【講評】笑顔で帰って来た弟を迎える作品で、ほほえましい。仲の良いきょうだいなのであろう。クラブ活動であろうか、弟の膝についた黒い土を見て、頑張った弟を讃<sup>たた</sup>えるのである。きょうだい愛の溢れた作品で、結句の体言止めが生きている。

中学生の部

シマエナガまた見てみたい森の中北海道の雪の妖精

札幌市立信濃中学校 2年 佐々木 汐莉

【講評】北海道に根差した歌に惹かれた。日本では北海道だけで見られ、「雪の妖精」とも言われるシマエナガ。丸みを帯びたふわふわとした白い毛が愛らしい。素直な気持ちに好感が持てる。

夏祭り花火の空に照らされて君が合わせる私の歩幅

和寒町立和寒中学校 2年 井上 葉那

【講評】花火だけの歌ならばありふれているが、この歌は花火と淡い恋心が上手に詠み込まれている。「君」のさりげない優しさを受け止めているのだ。情景も気持ちもクライマックスに向かう感じが良く出ている。

高校生の部

かき氷分けあうスプーンふれたとき胸が高なる夏の夕暮れ

旭川龍谷高等学校 1年 村山 はな

【講評】実際に経験をしなければ詠めない歌だろう。誰もがこのような淡い想いを経験しながら大人になっていく。君、私の言葉を使わずに見事に想いを表現している。具体的な描写がとても良い。

自主研修自分で選ぶ着物と帯黒い着物でちょっと大人に

北海道札幌視覚支援学校 3年 山下 葉那

【講評】この時ばかりはおしとやかに過ごし「大人」を感じただろう。自分で選んだ「黒い着物」がこの歌を引き立てている。着物に合う帯をワクワクしながら選んでいる様子が浮かぶ。日常を離れたところにも短歌の種はある。

《佳作》

小学一～三年生の部

わらい声風とはつぱとよる花火夏のキャンプは音がいつぱい

札幌市立大倉山小学校 2年 宮本 詩生

【講評】夏のキャンプの様子が上の句で端的に表現されている。作者にとつての発見だったのであろう。リズム感のある表現でのびのびとした作品になっている。結句の「音がいつぱい」に感動の中心がある。

スイスイと時間をわすれ泳ぐ夏あしたもあそぼ波とやくそく

札幌市立中央小学校 3年 大西 輝藍

【講評】夏休み中に海でキャンプをした体験を作品にしたのである。一日中時間を忘れて泳ぐ楽しみを一首にまとめしており、下の句の「あしたもあそぼ波とやくそく」がこの作品を生き生きとしたものになっている。

ぼくんちのたまねぎしやしきしやしおいしいよたくさんたべて元気になるう

富良野市立鳥沼小学校 2年 佐々木 駆

【講評】作者の家は玉ねぎ農家なのであろうか。自分の家の畑で採れた玉ねぎをみんなにすすめているのである。この作品も「しやしきしやし」というオノマトペが生きている。下の句に作者の思いが表出されている。

うんどう会いっしょうけんめいはしったよ三いはぼくのたからものだよ

北海道教育大学附属札幌小学校 2年 松田葉太郎

【講評】運動会での徒競走なのであろう。全力で走り切り、三位になったのである。その三位が「ぼくのたからもの」であるということが、この作品の良いところである。自分の力を出し切って得た三等賞なのである。

## 小学四～六年生の部

なごの海夕日でかがやきルビーのようなみの形が宝石作る

札幌市立駒岡小学校 4年 白鳥 青葉

【講評】「なごの海」は沖縄の名護の海の事であろう。沖縄へ旅行した時の名護の海の印象を「ルビーのよう」と表現し、下の句で「なみの形が宝石作る」と独自の表現をしたのがお手柄である。

たのしみは朝のしたくを終えてから楽譜を広げピアノをひくとき

札幌市立栄町小学校 6年 古家日花里

【講評】作者はピアノを習っており、毎朝一所けん命練習しているのであろう。それを「朝のしたくを終えてから」と具体的に表現したのが生きている。

ドンドンドンやぐらの上から見下ろすと踊るみんなの笑顔が見える

札幌市立新発寒小学校 6年 村上すみれ

【講評】盆踊りの情景なのであろう。作者はやぐらの上で太鼓をたたいているのであろう。ここでも初句の「ドンドンドン」というオノマトペがきいている。うえから見た「みんなの笑顔」がいい。

再会し声が変わった友だちに君もと言われた漁火祭り

札幌市立宮の森小学校 6年 高宮 和希

【講評】作者の故郷なのであろう。漁火祭り<sup>いさりび</sup>で再会した友達に「声が変わったね」と声を掛けたら「君も」と言われたのである。ふとした会話を取り入れたユニークな作品となっている。

## 中学生の部

盆休み帰省や旅行で公園はひとときわ静か一人ブランコ

札幌光星中学校 1年 瀧渕 結士

【講評】静かな公園で一人きりでブランコを漕いでいる。最初は一人で寂しく漕いでいたと想像するが、時間の経過と共に一人の時間を楽しんでいるようにも感じる。

「ハイチーズ」笑顔で撮ったあの写真輝く空と自然の中で

札幌市立厚別南中学校 1年 菅野 冬美

【講評】輝く空の下、自然の中で友達と撮った写真がかげがえのない一枚なのだ。今はもうなかなか会えない友達だろうか。写真を見返す度に勇気や未来への希望をもらっていると感じた。

サッカーでシュート決めてさけぶきみぼくもになりたいストライカーに

札幌市立新琴似北中学校 2年 森下 碧夢

【講評】「きみ」の動作、そして自分の素直な気持ちを余すところなく短い詩の中に収めている点が優れている。「きみ」の具体的な動作の描写がとても良い。これからもサッカーに短歌に邁進<sup>まいしん</sup>してほしい。

かき氷いちごの赤がとけてゆくスプーンに残る冷たい時間

松前町立松前中学校 2年 竹内 優杏

【講評】何気ない出来事を丹念に観察して時間の移り変わりを見事に一首にまとめた。観察力が優れている。どんな出来事でも歌になる。写実は短歌の原点だと思わせてくれる一首だ。

## 高校生の部

## 角席へ：切なる思いで掴むくじ引つ越し先は教卓の前

札幌北斗高等学校 1年 吉原 唯菜

【講評】クラスの席替えをくじで決めているようだ。先生の目に付きにくい「角席」を狙っていたが、願ひ虚しく教卓の前になってしまった。初句を「角席へ」としたところがとても効果的。「：」は「行きたい」の略だろう。

## ホッケ漁船酔い耐えて沖に出る手元よく見て凄技学ぶ

北海道小樽水産高等学校 1年 本間 嵩敏

【講評】水産高校生ならではの作品。漁船に乗って実習しているのだろう。船酔いに耐えながらも、この経験を物にしようと漁師の手元や動作を見つめている。真剣さが伝わってくる。貴重な経験を短歌に昇華させた。

## 真つすぐに矢は夏空を切り裂いて汗と静寂響く道場

北海道釧路工業高等学校 2年 小澤 楓眞

【講評】とてもすがすがしい一首に仕上がった。真つすぐに飛びゆく矢、夏の青空、広々とした道場が情景として浮かぶ。矢が夏空を切り裂くという表現が見事である。作者の気持ちを詠んでいないところが、この歌を引き締めている。

## 花火見て浴衣の裾を直しつつ太鼓の音に胸はずめり

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 3年 影沢 遥彦

【講評】「夏祭り」の言葉を使わずに、その情景を表現している点が良かった。普段はカジュアルな服装でもこの時ばかりは浴衣の所作で過ごしている。太鼓の音に誘われ気分も盛り上がっていく。

## 《入選》

## 小学一～三年生の部

## 小さいなききゅうからみたおかあさんぶかぶかうかぶあおぞらのなか

札幌市立大倉山小学校 1年 松田千久彩

【講評】作者は、気球に乗っているのである。そのはるか下でお母さんが手を振っているであろう。その小さく見えるお母さんを作品にしたことで下の句が生き生きしたものになっている。

## つうがくろおそろしいかおしまもようぶんぶんとぶよオオスズメバチ

札幌市立幌北小学校 2年 田中 希

【講評】通学路でオオスズメバチに出合ったのである。刺されたら大変なことになるオオスズメバチを「おそろしいかおしまもよう」とよく観察している。

## 夏まつりおいしかったなかき氷まぜたらどうなる？レモンとぶどう

札幌市立札幌苗北小学校 3年 加納 光莉

【講評】夏祭りでかき氷を食べた体験から発想した。レモン味とぶどう味のかき氷を混ぜたらもっとおいしくなるだろうかと想像した好奇心旺盛な作者が浮かんでくる。

## かわいいなまるくてあかいいちごさんへたをはずしてぱくぱくぱくり

札幌市立札幌苗緑小学校 1年 斉藤 風

【講評】この作品も、これから食べるいちごを題材にして、上の句の可愛い表現が初々しい。特に下の句の「へたをはずしてぱくぱくぱくり」がリズムカルで楽しく読めた。



## 三姉妹おにぎりにぎるあつつあつ手の大きさをサイズがちがう

札幌市立札幌緑小学校 3年 太田 茉優

【講評】三人の姉妹でおにぎりをにぎる様子を作品にしてユニークである。特に「手の大きさをサイズがちがう」という発見がこの一首を成功させている。

## 万博のキラキラ世界ゆめのようクウェート館のプラネタリウム

札幌市立新琴似南小学校 3年 神山 葉凜

【講評】今年開催した大阪万博であろう。万博のクウェート館で見たプラネタリウムが印象的で、その感動が「キラキラ世界ゆめのよう」に良く表現されている。

## あかいうきわゆれてふわふわなみのうえねところがつてながされてゆく

札幌市立屯田西小学校 2年 佐伯 星南

【講評】実際に赤い浮き輪にゆられているのは作者なのか、ここでははっきりしないが、子どもらしい表現で一首にまとめ、好感が持てる。ゆられているのが誰なのか解るともつと良かったと思う。

## セイウチがこまったようなポーズしてかわいかったよはずかしそうで

札幌市立中の島小学校 2年 林 知愛

【講評】水族館で見たセイウチの様子をよく観察して「こまったようなポーズ」や「はずかしそう」など、セイウチをユーモラスに擬人化しており、好感が持てる。

## チアダンス心はずむメロディーにテンポを合わせポンポンゆらす

札幌市立発寒西小学校 3年 佐藤 瑞季

【講評】チアダンスを踊っている作者が見えるようである。楽しく踊っている様子が「テンポを合わせ」によく出ている。手にはポンポンを持って踊っているのであろう。

## 夏休みのどがかわいたおひるどきチリンとなるよつめたいこおり

札幌市立羊丘小学校 2年 白鳥 翔眞

【講評】今年の夏は特に暑い日が続いた。作者は、喉がかわいたお昼に、氷の入った水を飲むうとしているのである。その時氷がコップの中で音を鳴らした様子を作品にしたものでユニークである。

## アブラゼミみつけたけれどとらないよのこりのいのちだいじにしてね

田中学園立命館慶祥小学校 1年 佐藤 零風

【講評】セミの命は地上へ出ると短いことを知っているのであろう。見つけても採らないと言い、「のこりのいのちだいじにしてね」から優しさが伝わってくる。

## たたきわりちらばるかけらするどい刃ぼくにはきこえる黒曜の声

田中学園立命館慶祥小学校 3年 土田 理登

【講評】黒曜石を題材にした歌で、発想がユニークである。黒曜石を生き物に見立てて「ぼくにはきこえる黒曜の声」とむすんで成功している。

## 楽しみだ秋になったらいねかりだおいしいお米いっぱい食べよ

苫小牧市立清水小学校 3年 斉藤 風音

【講評】稲刈りの体験を楽しみにしている作者が目につかぶ。下の句は素直な表現で子どもらしくて、読む者の心を温かくしてくれる。

## はつ雪やこたつにまるまるねこと犬わたしも入れて早おきの朝

苫小牧市立清水小学校 3年 櫻庭 結香

【講評】初雪が降った寒い朝、早起きすると、ねこと犬がこたつに丸まっていたのである。「わたしも入れて」がこの作品を実感のこもったものになっている。



## くっしやるこインドネシアの友だちと家ぞくと見たよっぱいの魚

別海町立西春別小学校 3年 今野 恵雫

【講評】インドネシアの友だちと家族で屈斜路湖へ行き、たくさんの魚を見たとき一気に詠んでいるのが良い。「よっぱいの魚」に感動が表現されている。

## 小学四～六年生の部

## たのしみはハム優勝をエスコンの席で見ながらワクワクする時

恵庭市立松恵小学校 6年 齊藤可夢以

【講評】作者は日本ハムファイターズのファンなのであろう。北広島市にある「エスコンフィールドHOKKAIDO」で優勝を見るのが楽しみだというのである。結句にその期待が良く出ている。

## 新品のキラキラ光るランドセル思い出すのは緊張した日

帯広市立愛国小学校 6年 土田 温太

【講評】小学校へ入学した日の事を回想しているのである。買ってもらったばかりの新品のランドセルを背負って緊張した入学式は、貴重な経験なのである。

## 真夜中に起きて見に行く流星群BGMはしこつ湖の音

札幌市立義務教育学校福移学園 5年 山本 結喜

【講評】夜空をにぎわす流星群を見た感動を作品化した。「BGMはしこつ湖の音」という表現は新しい発見であり、素晴らしい作品となった。

## 手を伝う命の温もり乳しぼり二度目の感動飲んで味わう

札幌市立幌北小学校 4年 田中 歩

【講評】牛の乳しぼりの体験を作品化しユニークである。牛の乳を搾った時の感動を、さらにその牛乳を飲んだことで「二度目の感動飲んで味わう」としたところが斬新である。

## 友だちがサッカーチームをやめた日にボールを追って流れるなみだ

札幌市立栄緑小学校 4年 小椋 甲斐

【講評】お互いにサッカー少年団でライバルとしていた友だちがやめてしまったのであろう。友だちのいないグラウンドで、ボールを追いながら涙が流れて来たのである。いじらしい作品である。

## 宮島の鹿がまどろむ空見上げ八十年の平和と続け

札幌市立資生館小学校 6年 縄 乃々香

【講評】今年は戦後八十年で、色々と話題になったが、作者は「鹿がまどろむ」宮島に平和を感じているのである。結句の「平和と続け」に思いが集中している。

## きらきらとアジサイゆれてポタポタと鳴る雨の音これからの夏

札幌市立資生館小学校 6年 久木 麗禾

【講評】アジサイには雨が似合うと言われているが、その雨の音にこれから来る夏を感じているのである。雰囲気のある作品となっている。

## 夕暮れに縄飛び勝負親友と長い影見て未来重ねる

札幌市立西園小学校 6年 廣部 琴

【講評】なわとびの回数を友だちと競っているのであろう。夕暮れが近づきお互いの影が長く伸びていることを結句で「未来重ねる」と高学年らしい表現でしつかりまとめている。

## 運動会ゴールの先に見えたのは旗より先に揺れる母の手

札幌市立中央小学校 5年 君島 朱音

【講評】運動会の徒競走の場面であらう。全力でゴールを目指している先に、母親がけん命に手を振って応援していたのである。さらに勇気が湧いて、きつとゴールを駆け抜けたのであろう。

## 新聞でかんきょう問題書いたけどクラスみんなはどう思うかな

札幌市立屯田小学校 4年 石井 律歌

【講評】学級新聞であらうか。現在いろいろな場面で環境問題が話題になっているが、作者も題材にしたのである。その反応が知りたいと思っているのである。素直で共感できる作品である。

## まくら投げさあ投げるぞとふりかぶりドアが開いたセーフかアウトか

札幌市立八軒北小学校 6年 品野 由衣

【講評】修学旅行で、夜寝る前にみんなでまくら投げをしようとしているのである。ドアが開き、先生がのぞきに来たか一瞬しずまった瞬間を、結句で面白く表現している。

## いつの日か大きいカメラほしいけど今はおにあいパパのおさがり

札幌市立発寒南小学校 5年 道下 愛理

【講評】カメラに興味を持っている作者は、現在はお父さんのお下がりを使っている。だが、いつかは自分のカメラが欲しいと、素直な気持ちを表現した作品である。

## 楽しみは夏の鮎焼き口入れてレモンの酸味広がった時

札幌市立東山小学校 6年 川守田康助

【講評】川釣りを趣味にしているのだろうか。夏休みに鮎釣りに行く計画があるのかもしれない。その時の鮎焼きの味を想像しての作品。「レモンの酸味広がった時」という結句が生きている。

## 全力で走ってくれた自転車は二年の役目終えてお別れ

北海道教育大学附属札幌小学校 5年 板垣 珠実

【講評】二年前に買ってもらった自転車が、作者の身長に合わなくなったのであろう。今までよく走ってくれたと感謝しているのである。上の句に作者の思いが良く出ている。

## 秋空にマラソンランナーそれぞれに声をかけ合いスタートを切る

北海道教育大学附属札幌小学校 5年 松田 莉瑚

【講評】秋はマラソンの季節である。校内のマラソン大会なのであろうか。それぞれにはげましあいながらスタートを切る様子が下の句に良く出ている。

## 寒い冬転校をした気がつけばみんなに心ひらいていたよ

増毛町立増毛小学校 5年 風間 咲彩

【講評】寒い冬に転校をすることになった作者であつたが、みんなが温かく迎えてくれたおかげで、心を開くことが出来たという。素直な気持ちが表れた作品である。

## 中学生の部

## 声が出ず耳が聞こえず目が見えずおやつの匂いにスキップの老犬

石狩市立樽川中学校 2年 鈴木 惺奈

【講評】犬や猫は確実に人間よりも早く歳を取る。「老犬」は作者が幼い時から一緒だったと想像する。臭覚はまだ健在で匂いを頼りにスキップしてやつて来た。愛犬との絆を上手に詠み込んでいる。

## 炎天下ともだち呼んでばしやばしやとすずめのじゃれあい小さな楽園

恵庭市立恵み野中学校 2年 齋藤 希海

【講評】今年の夏は酷暑だった。すずめにとつても同じで、水たまりを見つけたすずめたちが水浴びをしているのだろう。小さな出来事にも目を向けて、明るく楽しい歌に仕上げた。

## 「またあそぼ！」名前も知らない男の子アイツが今では僕の親友

恵庭市立恵み野中学校 2年 益山 優風

【講評】二人の最初の出会いはもつと幼いときで名前も知らなかったようだ。作者はその出会いを強烈に覚えていたのだろう。過去と現在をほんの三十一音の中に上手く詠み込んでいる。

## 緊迫の勝負どころでやってくる最初で最後の代打の機会

北見市立南中学校 2年 山岸 歩叶

【講評】ホームランを打つことができたかどうかこの歌の先が気になったが、打席に立ったときだけを切り取っている点良かった。どのような状況かわからないが「最初で最後の」という言葉選びが効果的である。

## 昔から時を刻める時計台今この夏も歴史重なる

札幌市立厚別南中学校 1年 秋山 結衣

【講評】札幌に住む作者だからこそ、この歌が魅力的である。住む街への愛着を感じる。今年の酷暑の夏でもどんな時でも、時計台に札幌の象徴としてあり続けてほしいという作者の思いが込められている。

## 野球ある土日の週末すでもう作られている手作り弁当

札幌市立東白石中学校 2年 竹内 遥大

【講評】土日の野球練習に行く早朝に、すでに弁当は用意されている。その事実しか詠<sup>うた</sup>っていないが、それが読む者の胸に響く。親は実に有難い。「すでもう」に感謝の気持ちが読み取れる。

## ふわふわの猫の腹に顔近づけてやさしく吸いこむホッとする時

札幌市立宮の丘中学校 2年 渡部 果歩

【講評】ペットとのふれあいはホッとするひと時だ。具体的なふれあいの様子が描写されていて良い。愛猫は腹を見せられてさらに「吸いこむ」ことさえも許してくれる。とても親密な関係である。

## わたし以外誰にもできぬ二刀流サッカー陸上世界を目指す

苫小牧市立和光中学校 2年 柴田 叶実

【講評】とても運動神経の良い作者と推察した。「わたし以外誰にもできぬ」と言い切ったことがこの歌を際立たせている。短歌もサッカーも陸上も更に上を目指してほしい。

## カヌー漕ぐ鏡のような水面には濃くも淡くも支笏湖のおお

藤女子中学校 2年 魚住 心愛

【講評】支笏湖の水面は波立っていないく穏やかだ。だからこそ水面の青さにも濃淡があることに気付いた。歌は事象を良く観察することから生まれる。情景もとても美しい。

## 一年前折って履いてた制服の折り目が今はかすかに残る

北海道教育大学附属旭川中学校 2年 高附 夏望

【講評】制服を三年間着ていると誰もが経験することだが、詠<sup>よ</sup>むまでには至らないだろう。題材選びが優れている。かすかな折り目は成長の証。成長期の今にしか詠めない歌を大切にしてほしい。

## 借りたペン返してしまえば最終回私と貴方の恋物語

北海道教育大学附属旭川中学校 2年 野村 璃杏

【講評】中学生にしか詠えない歌にはのぼる。「借りたペン」だけが今は「私」と「貴方」を結び付けている。二人の関係性はまだ遠いようだ。微妙な気持ちを見事に三十一音に収めている。

## 夢の跡一部残りしアーチ橋は歴史を語る未完の線路

北海道札幌視覚支援学校 2年 佐藤 泰心

【講評】自分の身边を詠む歌が多い中、北海道の歴史的建造物に着目している点が良かった。作者の気持ちを詠み込んでいないところが巧みだ。それがかえって読む者に哀愁を伝える。

## フロアバレー耳を澄ましてボール待つ今がチャンスだアタックを打つ

北海道札幌視覚支援学校 2年 志田 修靖

【講評】題材はフロアバレーボール。題材の選び方も新鮮である。参加者全員がアイマスク等を付けて戦う。だからこそ「耳を澄まして」の表現が生き生きとする。時間の切り取り方もとても上手い。

## 赤ゆりの影をふむ午後踏切音きみのくちもとよめずにいたよ

室蘭市立桜蘭中学校 3年 藤本麻由佳

【講評】恋の歌と捉えて良いと思うがとても成熟した詠いぶりに驚いた。赤ゆりの咲く晴天の夏と想像した。踏切を行く電車の音にかき消され、「きみ」が何と言ったかわからないところが、この歌を魅力的にしている。

## 見上げると夜空に咲いて消える花入れる花瓶は君との記憶

和寒町立和寒中学校 2年 山口 莉生

【講評】花火を本当の花に見立てたようだ。作者が花瓶に入れたいの「君」と共有したかけがえのない時間か。花瓶に入れて残しておきたいが、それと同時にいつかは儚く消えてしまう記憶と感じているようにも思える。

## 高校生の部

## 夏休み夏期講習とランデブー学生たちの不可避のさだめ

帯広北高等学校 1年 宮木ひなた

【講評】つらい夏期講習も自分との「ランデブー」と表現した。ユーモアが効いていてユニークである。作者の明るくて前向きな性格が伝わってくる。「不可避のさだめ」もきつと乗り越えていけるだろう。

## 「彼氏いる？」聞かれた瞬間目を逸らす知られたくない君が好きだと

帯広北高等学校 3年 富田 愛白

【講評】「君」は何故、「彼氏いる？」と聞いてきたのだろう。おそらく「君」も作者に好意を持っているのではと想像した。いっそ「君が好き」と言えたらよいのだが、知られたくない微妙な気持ちを上手く詠み込んだ。

## ボランティア介護の道へ第一歩喜ぶ姿が夢を支える

札幌龍谷学園高等学校 3年 長尾 一輝

【講評】将来、介護職へ進もうとしている作者。大変な職だが、夢を持ってその道へ進もうとしている。ボランティアの経験を通して感じた素直な気持ちに好感が持てた。

## 朝の風夏の匂いを載せながら君がいないいつもの坂道

市立札幌新川高等学校 3年 加藤 蓮

【講評】爽やかな風景が浮かぶ魅力的な歌である。五感を働かせ爽やかな歌に仕上げた。しかしながらそこには「君がいない」。素敵な風景の中に「君がいない」ことがこの歌を深くしている。

青い肌雲のヴェールに覆われて纏<sup>まと</sup>う香りはペトリコール

市立札幌新川高等学校 3年 兜森 己陽

【講評】「青い肌」とは、青い山肌のことだろうか。山には雲が垂れ込めていて、地面からは雨上がり特有の匂い（ペトリコール）がする。言葉選びが巧みで、幻想的な歌になった。カタカナの使い方も効果的である。

## 「どうしてる？未来の自分」博識のAIにでも尋ねてみようか

市立札幌新川高等学校 3年 川上 詩雛

【講評】高校三年生は人生の岐路であろう。自分の未来が気になるのだ。真剣な悩みをユーモアたっぷりに「博識のAI」に尋ねてみようかと思う。真剣な題材も面白いところに落とし込んでいるミスマッチがとても良かった。

## 白い息こぼれて落ちた放課後の言ってしまった好きの一言

北海道岩内高等学校 2年 末廣 伶王

【講評】「白い息こぼれて落ちた」の表現がこの歌を際立たせている。季節は冬だろうか。「放課後」「言ってしまった」に雰囲気を感じた。気取りのない詠い方が魅力的である。

## 拍子木と漢の声で神輿揺る浴衣半纏提灯の影

北海道小樽水産高等学校 1年 星 愛結

【講評】祭りの様子を余すところなく表現している。「浴衣半纏提灯」と畳み込むように漢字で並べたところが上手い。男を「漢」と表現した点もこの歌の臨場感や迫力を増している。

## 春の海飛び交う魚バレリーナきらめく鱗しなやかな鰭

北海道小樽水産高等学校 2年 畠山 惇

【講評】水産高校生ならではの歌に注目した。魚を良く観察して命の輝きを表現している。「バレリーナ」の表現が独特である。下の句の「きらめく鱗」と「しなやかな鰭<sup>ひれ</sup>」がとても良く呼応している。

## レジ待ちに赤子はきやつきゃ私はにこり母さえ知らぬ秘密のひととき

北海道帯広柏葉高等学校 1年 松原 桔平

【講評】このような経験はあるが短歌にするのは難しい。母親に抱かれた赤子が後ろに並んでいる自分に笑いに笑いかけてくる。ほんのひと時の二人だけの触れあいを見事に表現している。

## 山の中つりいとたらし歌うたう風が来たれば草木も歌う

北海道釧路工業高等学校 2年 中村 将真

【講評】大自然と一体化した様を見事に表している。自分の気持ちを詠み込まずに美しい自然を表現している。時間に追われて過ごす現代人には胸に響く一首だ。自然体で過ごしたい。

## 自分には見えない背中後ろから見守る母の行ってらっしゃい

北海道苫小牧西高等学校 2年 後藤 愛加

【講評】自分のものなのに自分では見えない背中。自分ではわからないことでも母はいつもお見通しで、温かく見守ってくれている。そんな気持ちがこの歌には込められている。

## 片想い追ってる恋もいいけど好きな人には追われないよね

北海道中札内高等養護学校幕別分校 2年 嵐 真愛

【講評】まさしくその通り！と思った一首。話しことばがそのまま短歌になっていて楽しい。素直な詠い方に好感が持てた。明るく軽やかな詠い方が歌の内容にぴったりと合っている。

## 受験前参考書のしわ気に留める努力の証確かめるように

立命館慶祥高等学校 3年 稲村 湊

【講評】受験に向けて頑張ってきた作者。「参考書のしわ」は「努力の証」なのだ。心の小さな揺らぎからこのような一  
首が生まれることがわかる。明るい未来を応援したい。